

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	公共交通対策特別委員会	会議場所 第3委員会室	
		担当職員 阿久根由美子	
日 時	平成24年4月25日(水曜日)	開 議	午前 10 時 00 分
		閉 議	午前 11 時 15 分
出席委員	◎小島 ○立花 山本 田中 吉田 西村 堤		
執行機関出席者	なし		
事務局	阿久根		
傍聴者	市民1名	報道関係者 一名	議員一名()

会 議 の 概 要

10:00

1 開議

【小島委員長 開議】

【事務局 日程説明】

10:03

2 議題 ○公共交通ワークショップまとめ

【事務局 別紙説明】

10:15

<小島委員長>

大きく、「現状課題」「公共交通の理想」「取組み」に分け議論を深めつつまとめていきたい。ご意見を。

<西村委員>

採算性、運賃設定について、均一料金はどうかと思う、料金に差があってもよいと思う。

(現状の課題について)

<小島委員長>

まず、現状の課題でご意見を。

<事務局>

まとめのなかで高齢者の負担を入れるか否かご議論いただきたい。

<吉田委員>

「バス停までの距離」を「バス停までのアクセス」に、「不公平感」を「各路線に

よる不公平感」に変えてはどうか。

<堤委員>

意見の整理ができているので、このままで全てよい。

<田中委員>

「高齢になってくると」は「高齢者等交通弱者にとって」と表現してはどうか。

<吉田委員>

まとめの部分を検討するのか、意見を修正するのかどちらか。

<事務局>

特別委員会でのまとめを協議願う。

<吉田委員>

「②料金」にまとめてよいのでは。不公平感をもっているのは料金ではないのか。

<山本委員>

便利さでの不公平感である。

<吉田委員>

運行上なら最終的には運賃に係わっているのではないか。

<西村委員>

料金ではなく、コミュニティバス運行の有無、路線の有無、便数による不便さでの不公平感である。

<堤委員>

利便性での不公平感であり、料金格差とは区別して分かりやすく説明を加えればよい。

<吉田委員>

何の不公平感かを明記すればよいと思う。

<立花副委員長>

第1ブロックでの意見である。立場によって見方が違う。篠町は人口密集地域ではあるが、亀岡地域のようにコミュニティバスが走っていない。亀岡駅までは南つつじヶ丘を経由し 30～40 分かかり、ガレリアまでも馬路経由により相当時間がかかる。利用上の不便さがある。住宅のなかも通っていないという不公平感がある。

<吉田委員>

篠町は他地域に比べ便利な地域である。不公平感は亀岡地域との比較によるものか。

<立花副委員長>

立場が違う不公平感である。コミュニティバス運行の不公平感もある。コミュニティバス運行のニーズがある。

<小島委員長>

ワークショップでは地域ごとの課題が出されることもねらいの一つであった。

<田中委員>

「地域間の不公平感」とすればどうか。

<吉田委員>

「運行上の不公平感」とすればどうか。

<堤委員>

コミュニティバスを周辺地域で運行し、市街地とのバランスを図るべきとの意見を以前から述べてきた。市民の声を反映した運行を願う。便利なところではなく不便なところにバスを運行させるのが是正だと思う。周辺地域でも不公平感があると思う。

<小島委員長>

①で不公平感とし、②でも不公平感としてはどうか。

<吉田委員>

「料金格差」を「料金に関する不公平感」とまとめればよい。【全員 了】

(公共交通の理想について)

<西村委員>

③均一料金にするかは議論するべき。④「デマンド交通等」ではなく「バス以外の交通手段」とすればよいのでは。

<吉田委員>

ここでは出た意見をまとめることなので、このままでよいと思う。「バス以外」とするとデマンドバスという言葉が消えるのでよくないと思う。

<堤委員>

まとめでは「均一料金」のみ表現されているが、執行機関には個々の意見も送付するのか。「均一料金の検討」などとすればどうか。

<小島委員長>

アンケート調査を行政と一緒に作るのがこのワークショップの目的である。

<吉田委員>

議会でアンケート調査をするのは難しい。執行部がアンケート調査をしようとしているから、アンケートに関わって執行部と今は一緒にやっ払いこうとしている。全てが行政と同じでなくてもよい。

「退職者の雇用によるバス停までの送迎又はアクセス」をうまく入れられないか。

<立花副委員長>

デマンドバスは戸口から戸口である。「バス停までのアクセス」はここでは入れなくてよい。「交通弱者の送迎（アクセス）」で入れるべきである。南丹市等デマンド交通の視察を行い特別委員会で今後研究してはどうか。

<吉田委員>

「等」が入るので、送迎も入れればよい。課題にあげるので理想にあってもよい。

④に入れても違和感はないが、⑤その他に入れてもよい。

<山本委員>

均一料金を入れるか議論するべき。バス停までのアクセスは第3ブロックでも意見のあったところである。

<小島委員長>

「均一料金」の表現はこのままでよいのか。

<吉田委員>

「均一料金」を決めるのではなく、アンケート調査なのでそのなかで聞いたらよいと思う。

<山本委員>

それならよい。

<西村委員>

議会の意見になるのではないかと心配した。パークアンドライドが理解できない。

<田中委員>

「均一料金」ではなく、「料金設定」とすればよいのではないか。

<吉田委員>

「理想」としてまとめるので、こうなればよいということでこのままでよい。

<西村委員>

遠距離は運賃が高くなるのが前提、「運賃設定」としてはどうか。

パークアンドライドを説明願う。

<事務局>

自宅から車でバス停まで行き、その近くに駐車し公共交通を利用しようとするものである。

<吉田委員>

バス停まで行くことができない人はどうするべきか。

<事務局>

③「採算性・運賃設定」の「採算性」の部分は意見が出ていないので削る。「運賃」「料金」の文言は「料金」に統一する。まとめのなかで「均一料金」でよいのかどうか。

<西村委員>

「均一」と書いては困る。

<吉田委員>

それは分かるが、意見が出ているので削るわけにはいかない。

<田中委員>

「市内全域均一料金に」とすればどうか。

<吉田委員>

「利便性を求めるなら負担も上がることを理解いただく」を P6 の「アンケート調査関連」でまとめてはどうか。

<事務局>

料金の設定に対する利用者の理解を求めると解釈した。

<小島委員長>

第3ブロックでの意見である、「アンケート調査関連」に入れてもいいと思う。

<事務局>

③料金設定の項目にし、まとめでは「均一料金」とすることで確認させていただく。

【全員 了】

<西村委員>

そのように会議を進めるのなら、このまとまった内容でこれ以上の意見はない。

<吉田委員>

意見をもらうためにワークショップしたのでここでその意見を削ることはしてはいけないと思う。ただ、議会として要約の形で特別委員会がまとめればよいと思う。

<小島委員長>

これは事務局提案なので、委員会で確認をさせていただきたい。

<堤委員>

事務局案ではなく、委員長案を出すべきだ。

3 その他 ○次回委員会

<小島委員長>

次回の委員会の内容について事務局から説明を。

<事務局>

昨年同様、バス交通について前年度の総括を執行部からの説明を聞き、その後、今日の続きでどうか。【全員 了】

散会 ～11:15